



「プログラミング学習」が始まります

理数科2年生の学校設定科目「SSH情報」で、9月から11月にかけて「プログラミング学習」に取り組みます。9月27日（金）に、九州工業大学教養教育院長 西野和典 先生に、「問題解決の方法と手順」と題して、問題解決における問題の定義や問題解決の手順としてのPDCAサイクルなど、具体的な例を交えて講義いただきました。



生徒の感想

- 「目標と現実とのギャップをしっかりと理解して問題を明確化したり、問題解決の目的を意識したりして計画しようと思いました。特に、情報収集が今まであまりできていなかったと思いました。既に知っている範囲の知識だけで計画していたと思ったので、今度からは人から話を聞いたりインターネットを活用して情報を集めたりして計画したいと思いました。」
- 「プログラミングを料理に例えて説明されていて、事柄を構成する要素を分割して一つ一つ解決するようにすることや順番を考えることが大切であるということがよく分かった。実際にプログラミングの学習をする際には、どのように要素を分けるかなどを考えながら学習していきたいと思った。」
- 「SSH研究Ⅱ」の課題研究ではPDCAサイクルが少しはできていると思っているが、いびつな回転だと感じることがあるので、今後このサイクルをできるだけ滑らかにできるようにしていきたいと思った。」

「リサーチセミナー」を開催しました

9月28日（土）に、理数科1年生を対象に、第4回「リサーチセミナー」を実施しました。佐賀大学 医学部 生理学分野 安田浩樹 先生に、「マウスの脳を診る」と題して、中枢神経系の機能メカニズムや遺伝子改変マウスを使った中枢神経系機能の電気生理学的・行動学的研究の具体例、MRI造影剤の重金属がシナプス伝達に及ぼす影響を題材とした研究の事例紹介など、研究課題の見出し方や解決方法について話していただきました。



生徒の感想

- 「オープンフィールド実験では、マウスが壁際に滞在する時間が長い程、不安が大きいという判断基準を設けて検証をしてあった。研究をする上で、データの収集方法や検証方法を考えるというのが難しいところだと感じた。」
- 「マウスが臆病かどうかという目で見えないことを、壁の近くにいる時間などを使って実験で見られるようにしていただくのがすごいなと感じました。最初から先入観にとらわれずに、どうすればよいか、どの方法が最適かなどをじっくり考えて計画をして課題研究に臨みたいと思いました。」
- 「マウスの大胆さや慎重さなどの抽象的な状態を具体的な数値で表してあったが、自分も「SSH研究Ⅱ」の課題研究でこのようなデータの取り方を参考にしたいと思った。」

「共創セミナー」を開催しました

10月10日（木）に、理数科1年生を対象に、第2回「共創セミナー」を実施しました。NPO 法人唐津環境防災推進機構 KANNE 事務局 藤田和歌子 先生に、「虹の松原の再生・保全活動」と題して、虹の松原の環境保全の概要とそれに向けた団体の取り組み、松葉や松枝の新たな活用方法に向けた研究開発など社会課題への取り組みについて話していただきました。



生徒の感想

- 「NPO法人の方が、目標（あるべき姿）に向けて、現状や原因となっていることから問題を見つけ、目標に近づけるために沢山の課題を出して、その解決策を考え実行されていることが分かりました。」
- 「虹の松原の再生を単なる文化財の復活としてだけでなく、松原を含めた地域の復興も合わせて考えていらっしゃると思う。利益よりも社会をよくすることを目的として行動されているのだと思った。再生により生まれるリターンまで考えた上で、誰もが魅力的だと思える取組をされていた。『何に対しても関心を持つことから始まる』という言葉が印象的だった。」
- 「松葉や松枝を回収して、ペレットや肥料として再利用の方法を考え実行されているのがすごいと思った。」「SSH研究Ⅱ」での課題研究を通して、落ち葉や枝の新しい活用方法を研究するなら、自分は何をするのかアイデアを出してみたいと思った。」